

横須賀総合高校の「産業社会と人間」と「羅針」

学習指導グループ

👉ポイント1 「産業社会と人間」と「羅針」は本校の教育の基盤

扇で例えるならば、各教科の学びは風を起こす「扇面」、各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を横断的・総合的に活用していく場面が「総合的な探究の時間」、つまり本校の「羅針」です。また、扇の「要」が産業社会と人間であり、各教科等の学びの基盤となります。



全体計画を意識した上で、各年次において、「産社会」「羅針会」を適切な頻度で行い、育成を目指す生徒の姿など、指導と評価について、共通理解をお願いします。

「産業社会と人間」と「羅針」にはそれぞれの目標があります。(全体計画を参照)
本校では「産業社会と人間」の目標達成のために、探究のプロセスを組み込んでいます。

👉ポイント2 「産業社会と人間」と「羅針」の探究活動の「問い」の深化

3つの問い → 徐々に「問い」の難易度をステップアップさせていく。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 どうなっているか？ | = 「現状・実態」を探究する |
| 2 なぜ・何だろうか？ | = 「原因・理由」を探究する |
| 3 どうすれば良いだろうか？ | = 「対策・対応」を探究する |



本校の現況 (関東学院大学 吉田 広毅様のご講評より)

1の問いを踏まえて2の問い、1・2の問いを踏まえて3の問いが成り立つが、本校の場合、1が不明確なまま2に進んでいるケース、1・2が不明確なまま3に進んでいるケースが見られる。



対策 = 年次ごとに、指導の軸を設定する。

- ・探求のプロセスは、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」
- ・生徒の実態を踏まえて、1年次のうちに2や3まで進んでもかまわない。
- また、3年次において、1や2に戻ることもある。

「問い」のステップの軸

3 どうすれば解決できるか/論証できるか?	3年次
2 起こっている原因・理由は何か?	2年次
1 自己を取り巻く社会はどうなっているか?	1年次

※生徒の実態に合わせて、指導を往還させる!

教員が指導で押さえるべきこと

👉 生徒の実態（ステップ）を踏まえ、「問いかけ」、「やり取り」を繰り返すこと

1年次 「現状・実態」を問うテーマ

☑️テーマ設定と研究方法の不一致はないか、根拠を明示しているか、研究の意義は何か。

2年次 「原因・理由」を問うテーマ

☑️「現状・実態」を踏まえているか ☑️多面的・多角的な視点で分析・調査できているか。

3年次 課題を解決する方法や対策の提案／事象の論証

☑️「現状・実態」や「原因・理由」を踏まえて、対策・対応を提案できているか、
又は、事象の論証ができているか。

☑️その対策・対応は実現可能か。また、可能にするにはどうすればよいか。

探究活動で求められる「教員の指導力」は、これからの教育に欠かせないスキルです。

全員で高め合いながら、生徒の資質・能力の育成に取り組んでいきましょう！